松戸市立松戸

高　等　学　校

美　　術　　部

ICHIMATU ART CLUB

H30 千葉県高等学校総合文化祭美術・工芸作品展（11/13～18）を終えて

祝　全国大会達成おめでとう！

F50 号　油彩「広がる想い」　２年 Y.Y さん

２０１９年７月２７日から行われる第 43 回全国高等学校総合文化祭（佐賀大会）に千葉県代表として生徒派遣が決まりました。そこでは、今回の作品展示と、各県代表生徒との交流会に参加します。平面作品では、全国エントリー140 点の中からの７点選出という厚い壁でしたが、本人の頑張りで見事に入ることができました。

＜絵に込めた思い＞

この絵に描かれている男の子は、私のいとこです。「いとこが自由に大好きな物を想像し、その想像は広がっていく」というイメージで描きました。今回は、コントラストを全体的に上げて描いてみました。そうすることで、より明るく、生き生きとした世界を表現しました。

＜総文祭を終えて＞

今回の総文祭は、２回目で、前回の反省を生かした作品を描くことができました。しかし、他校の作品を見れば、まだまだ気づかされること、学べることがたくさんあった。

例えば、構成の仕方や色の組み合わせ、やはり同じモチーフでも、見せ方によって与える印象はまるで違うと思った。全国エントリーができるのは最後だが、今回学んだ知識を基にまた新しい絵を描いていきたい。何より、絵を最後まで描き上げることができてよかった。全体に色をのせて、ある程度描きこむと終わりが見えなくなるが、それを超えることで絵は完成するんだと思った。今回自分の絵が全国に選ばれたと聞いたとき、最初は信じられなかった。でも、自分の作品と努力が評価されたのは、とても嬉しいことであると思った。

他の部員も最高の頑張りを見せました！

今年度は、F50 号油彩8点、デザイン B1　2点　というこれまでにない大作を多数出品することができました！

油彩　F50号

命にめいっぱい　　1 年 K,R さん

１年　Ｋさん

＜絵に込めた思い＞

　こんなに大きなキャンバスに描くのは初めてだから、何かすごいものを描いてみようと思い、顔を百個描こうと思ったのがきっかけです。命って何だろうって考えた時に、一つの命の中にたくさんの感情やその人の大切なものが詰まっていると思いました。だけど、優しい人でも、何かのきっかけで、簡単に悪い方に引き込まれてしまうくらいもろくて儚いものなのかなと思って描きました。

＜総文祭を終えて＞

　中学校の時から油絵はやっていましたが、技術が全くなく、見よう見まねでやっていました。大きなｷｬﾝﾊﾞｽに描くのが楽しみで、誰よりも先に初めてしまったために、色が濁ってしまったり、一部だけ手をかけてしまったりと、すごく苦戦しました。やめたいと何度も思いました。だけど、先輩たちの絵を観て、私もこんなふうに上手になりたいと思うようになり、苦戦しながらも、木の幹を描き上げた時、一気にスイッチが入って、後半の方はすごく集中できるようになり、先生や先輩に沢山アドバイスをもらったりして、今ではずいぶん成長できたなと実感しています。今回の総文祭を通して、周りの人達のアドバイスや、会場で絵を沢山観て、学んだことや感じたことをこれからの作品や部活動で生かしていき、来年は全国を目標に日々頑張ります。

油彩　F50号

綻びは自然に　1 年 K.S さん

＜絵に込めた思い＞

　町が火車になる中、サメが渦巻く海の一角に取り残され、危機一髪な状態でも焦ることなく笑っていられる奴が一番強いんだぞ！という思いを込めて描きました。下の海の青と夕焼けの赤のコントラストを大事に、全体的にはっきりした印象に仕上げました。散りばめらた変な雰囲気を楽しんでいただきたいです。

＜総文祭を終えて＞

　私は、中学校でも美術部に所属していましたが、油絵をやるのは初めてでした。今回のＦ５０号が初めての作品で、全てがチャレンジの世界でした。どうせ大きな作品になるからと思い、人物以外は全く空想の世界に仕立てたのが今回の作品です。印象深い作品にしようとした結果、描くのはとても難しく、色々試したりしながら、探り探りやってきました。しかし、そのお蔭で自分なりの描き方やコツにも気づくことができた上に、先生方や先輩方に様々なことを教えていただけたので、今は、悔いより成長できたと感じられてよかったと思っています。今回学んだことを生かして、来年度は見る人があっと驚くような、心に残る作品が描けるようたくさん枚数を描いていきたいです。

B1号　アクリル画

このピースはあなたじゃないと埋められないよ　　１年 Y.H さん

＜絵に込めた思い＞

　このピースはあなたとじゃないと埋められないよ…。恋は宝石のようにはかなくもきれいなものだと思ったので、宝石を描きました。りんごはアダムとイブをイメージし、昔は身分の差で好きな人を結ばれることがなかったので、そういうことを絵にしてみたら素敵な作品になると思ったので、描いてみました。

＜総文祭を終えて＞

　他校の絵を観て、自分とほぼ同じ年の人たちが、こんなに細かく、見入ってしまうような絵を描いていて、とても衝撃を受けました。ですが、それと同時に私もこんな風に人が感動するような絵を描けるようになりたいという強い思いもこみ上げてきました。なので、自分がその時にできる最大限の力で絵を描いていきたいと強く思いました。来年は、全国に出して、今年よりもレベルアップした自分を見てほしいです。

アクリル画　B1号

弔い　1年 K.R さん

＜絵に込めた思い＞

　初めてのアクリル画です。円は様々な大きさにして、一つ一つ違う命を表現しました。牛の骨に模様を描き、死化粧を表現しました。落ち着いた色を中心にして、華やかさと安らかさを同時に表現しました。

＜総文祭を終えて＞

　他校の作品は、迫力を感じました。中には、カメラで撮ってズームにしても本物に見えるくらいの描き込みの油絵があったりして、とても勉強になりました。他校の作品を観ていると、「すごいな」「自分も描けるようになりたい」という気持ちが強くなりました。来年までには、自分の納得できるように、アイデアを出していくと同時に先輩方や先生方に自分からアドバイスをもらいに行こうと思います。本当にいい経験ができました。来年はもっと自分で色々考えて、一番の作品が作れるようにしたいです。

油彩　F50号

叶える　２年I. Kさん

＜絵に込めた思い＞

「叶える」とは“他人の望みで実現させる”という意味です。学校の教室には、それぞれ夢や目標を持った人達が沢山います。その人達のことをクレヨンや鉛筆で見立て、各々の色は”個性“を示しています。”協力・団結“という花言葉であるガイラルディアの花で表現しました。協力・団結できるクラスで支え合えるからこそ、一人ひとりの夢が叶うのだと思います。その夢の象徴として、ユニコーンと鳥で表現しました。

＜総文祭を終えて＞

　今回の絵は「夢を叶える」というテーマと色彩の鮮やかさを生かして塗りました。いかに奥行きもあって彩度を保ちながら描いていくかに試行錯誤していました。その時は、彩度を保つには色んな色を置こうと思い、絵に一体感がなく、どこに注目して良いか分からない状態でした。

　ですが、部活の皆の油絵を見て、彩度を保つということはいろんな色を置くのではなくて、置いた色の発色の良さを残していけば良いと分かりました。その成果もあり、まとまった配色で彩度を保った絵ができて良かったです。

他校の絵は、写真では出せない、写真をも超える絵の数々で圧倒されました。一本一本の線だったり、隅まで丁寧に筆が入れてあって、絵に込められた思いや努力がひしひしと伝わってきました。

油彩　F50号

0.１秒の世界　２年　M. Ｙさん

＜絵に込めた思い＞

　０．１秒の世界。私たちが”高校生“という青春を駆け抜けたことを残すために描きました。

　人物は、何事も飛び越えていける躍動感のある力強さを、それぞれの植物は、17 歳という可憐さや苦悩、将来への期待を表しています。この絵の特徴的なところは、下からのアングルです。どんなに辛く苦しく下を向いてしまっている時でも、この絵を観ると上を向いていられるような前向きな気持ちになれるといいなと思います。

＜総文祭を終えて＞

　去年は、初めての総文祭で学ぶことが多くて圧倒されたのですが、今回は自信を持って出展することができたので、少し成長した気がします。全国に行くことはできなかったけれど、今回の絵は、私が 17 年間生きて生きた中で一番真剣に、全力で描くことができたと思います。そして、今まで以上に絵を描くことが好きになりました。

油彩　F50号

切り取った青い春 ２年 I.R さん

＜絵に込めた思い＞

高校生活そのものを絵のテーマにしました。勉強や部活、人間関係などで忙しい中、少しずつ前に進み、時には戻って何かを得てさらに前に進む。そんな日常をブランコで表しました。一度ブランコに乗ると降りたくなくなるように、ずっとこのままでいたいという思いを込めて描きました。あっという間に過ぎる時間の一瞬を切り取ることで、一秒一秒の大切さを伝えたいです。

＜総文祭を終えて＞

　今回の作品は、高校生の今だからこそ描ける絵にしました。前回の反省を生かし、絵の具の生の色にならないように心がけるころができました。また、遠近感を意識して描きました。しかし、技法にとらわれ過ぎて、テーマだった「高校生ならではの気持ち」を絵に表しきれなかったように感じます。他校の作品は、去年よりもレベルが上がっていて、自分自身、１年の時より成長したと思っていたのですが、まだまだ未熟だと改めて痛感しました。他校の絵を見て、主題となるものがわかるように描くことも大切だと学びました。これから、伝えたいことを今まで以上に作品に込め、見た人の心に響く作品を作りたいと思います。

油彩　F50号

その子は美しかった

２年　0.R さん

＜絵に込めた思い＞

　今回の作品は、完成形が見えない状態で、描きながら色々工夫した作品です。例えば、スパンコールを貼ったり、絵の具の特性を生かしてマチエールを作りました。なぜ、過去形にしたかというと、作品を描きはじめてから完成するまでが最も美しいと思ったからです。制作過程の中でどんどん表情が変化していくことが最も美しいと感じたからです。

＜総文祭を終えて＞

　最後の総文祭が終わり、実際に展示されているのを見て、大きな作品をワクワクしながら描くことは終わったんだなあと思いました。
また、他校の作品を見たとき、千城台高校のＵＶレジンで作ったメダカの制作過程は、とても分かりやすく、作り方が見られてさらによい作品だなあと思いました。作った人それぞれのメダカに違いがあり、面白かったです。

油彩　F50号

あの頃

２年Ｉ．Ｎさん

＜絵に込めた思い＞

　私は双子です。気が付くと当たり前のようにそばにいて、いつも二人で支え合ってきました。
それは、今も幼かった「あの頃」も同じです。そんな「あの頃」の様子を絵にしました。
後ろにある睡蓮、ガーベラなどの花の花言葉からは、子どもの純粋さや、ここまで育ててきてくれた母や家族などへの感謝を表しました。また、右上の白い花はジャスミンで、私たちの名前の由来でもあるので大きく描きました。この絵を観て、誰もが懐かしい気分になれるといいです。

＜総文祭を終えて＞

今回の絵は、下描きの構想から最後まで、時間をかけて丁寧に描きました。また、色合いを全体的に明るくし、濁らない様に心がけました。その結果、暖かみのある絵になったと思います。でも、もう少し細かい所まで表現したかったという思いもあります。

　他校の作品からは、構図や色の乗せ方をより深く学ぶことができました。自分では想像できない視点からの絵を細部まで緻密に描いていて感動しました。しかし、秀でている学校でも一人ひとりの絵にあまり個性がないように感じました。全国エントリーできる最後の作品で、結果は出ませんでしたが、最後まで諦めずに描き切れてよかったです。また、これからも、自分の反省と、他校からの刺激を忘れずに私らしい絵を描いて、伸ばしていきたいです。